

令和5年1月9日

保護者様

北九州市立葛原小学校
校長 守口 多恵子

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

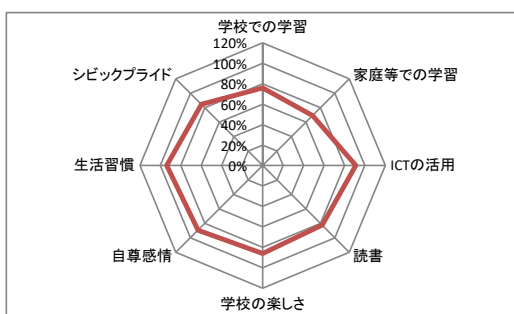
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	・全体的には全国平均正答率を下回っていた。 ・資料を読み取り、分かったことを基に自分の考えを整理して書く問題に課題があり、普段から筋道を立てて自分の考えをまとめる学習などを習慣化する必要がある。
算数	・全体的には全国平均正答率を下回っていた。 ・数量や図形について思考・判断・表現することに関する問題に課題がある。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。 ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「楽しかった」と思える授業を行うことが必要である。 ・「家庭学習や普段の学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、外国語の学習、学習の振り返り、課題提出等、様々な場面で活用できるように日常的にタブレットを使うようにする。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・国語については、MIMや音読などを行うことで、書いたり、読んだりする力を高めている。また、全校でこぐ取れ認知力を高める学習に取り組んでいる。
- ・算数については、朝の学習で、基礎的・基本的な内容の定着を図るために計算プリントなどを活用して学習している。
- ・1時間の学習の中で、タブレットを活用してペアやグループ、全体で学び合う時間を設定し、伝え合う力を高めている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

各学年の実態に応じて、宿題に自主学習を取り入れている。中学年以上は自主学習ノートを用意し、継続的に自主学習を行い、家庭学習の充実を図っている。また、各学年で「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、自主学習の方法を指導している。学期に1回、自主学習コンテストを行い、全校で取組の参考となる自主学習ノートを紹介している。また、タブレットのドリルを活用した家庭学習を行う予定にしている。